



植草 弘

戸田建設
取締役常務執行役員

「目からうろこ」で スキーにはまる

私がスキーを始めたのは、小学校3年生(1968年ごろ)のとき、スキーを趣味にしていた叔父、叔母に連れられて野沢温泉スキー場に行ったことがきっかけでした。

それ以来、スキーの楽しさに惹かれ、家族で毎年1回はスキー旅行に行くようになり、その後大学時代はインストラクターをやるほどスキーにはまってしまのですが、それには一つのきっかけがありました。

高校に入学したころには自分でもそこそこ滑れる腕前だと思い込み、学校が催すスキー教室でも上級クラスで参加できて、スキー部の連中と調子よく滑っていました。しかし、高1からスキーを始めた同級生がめきめきと上達し、高3のときには私のスキー滑走の誤りを指摘されるようになってしまい、実に悔しい思いをしたのを忘れません。なぜ彼がそんなに上達したのかを探ると、彼はスキー滑走の技術理論が掲載された専門誌を熟読し、それを実践していたのでした。

私のスポーツ感には、本から技術理論を学ぶという考えは持ち合わせてなく、彼がスキー技術を習得した専門誌の内容を見せてもらったときは、目からうろこ状態でした。それからは私も専門誌を定期購読し、大学1年の春休みには野沢温泉スキー場の民宿にアルバイトで居候して上達に励み、2年のときにSAJ1級に合格してインストラクターとしてアルバイトができるようになったのでした。

左の写真は息子が2歳のころ、当社が施工したスキー場に家族で行ったときのもので、当時は息子を抱っこして滑っていました。そんな私の影響を受けてか、息子も大学時代はスキー部に所属し、今も年に一回は息子とスキーに行き、自分の方が腕前が上だと見栄を張っています。右の写真は数年ほど前に会社の部下たちとスキーに行った際に撮影してくれたものです。スキーの道具が進化したため、今となっては若干古い滑りではありますが、まあまあ様になってますでしょ(笑)。

